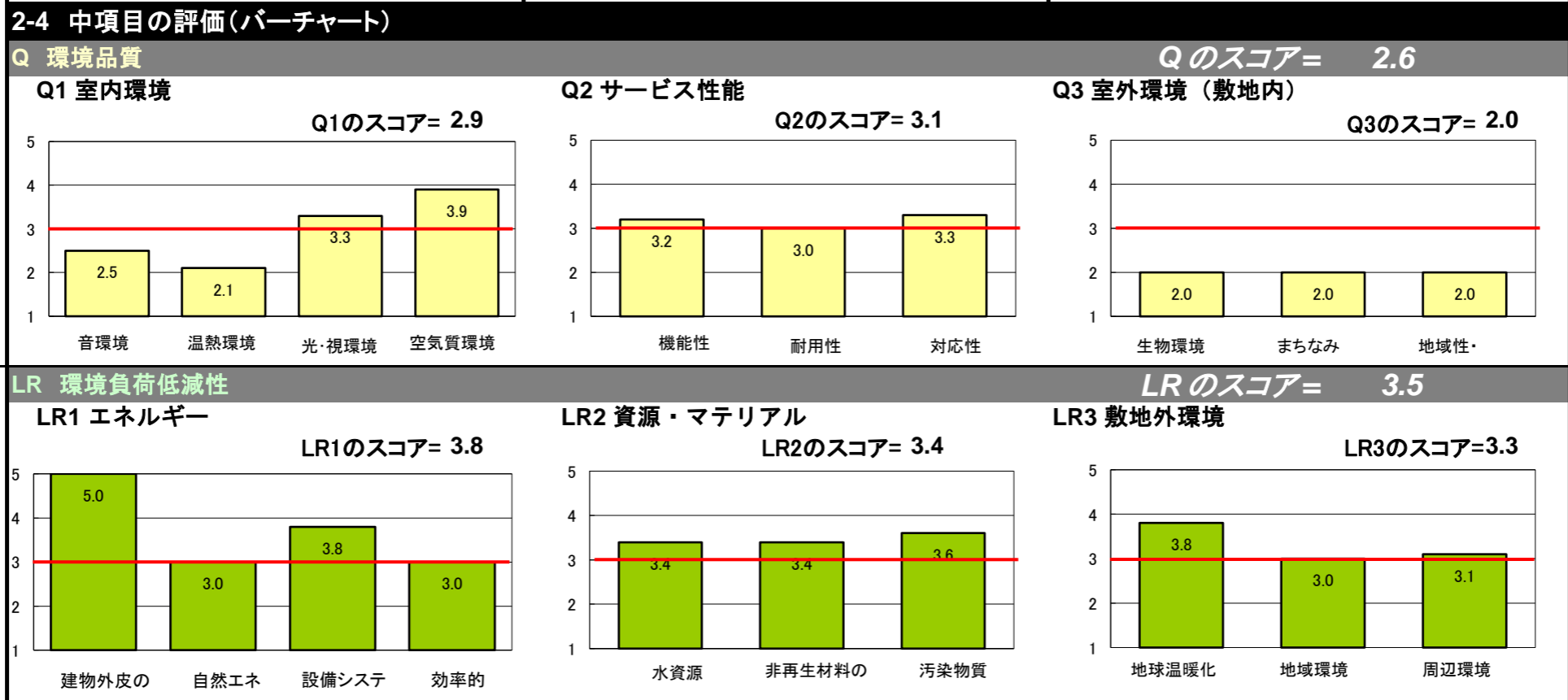
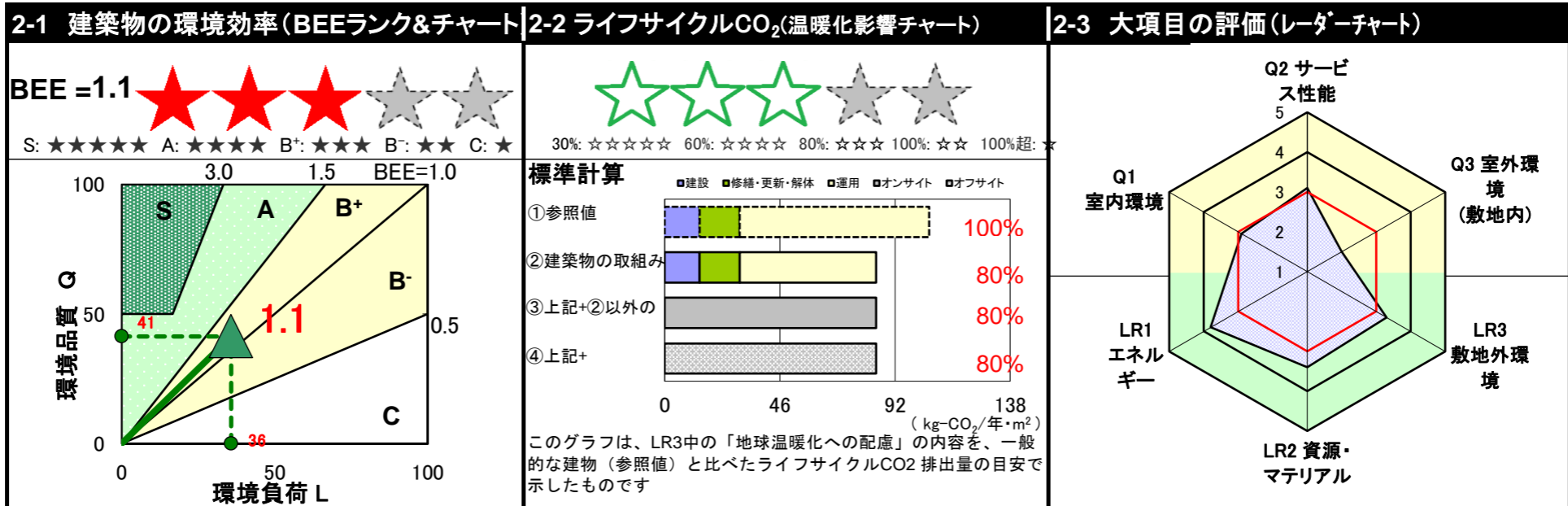
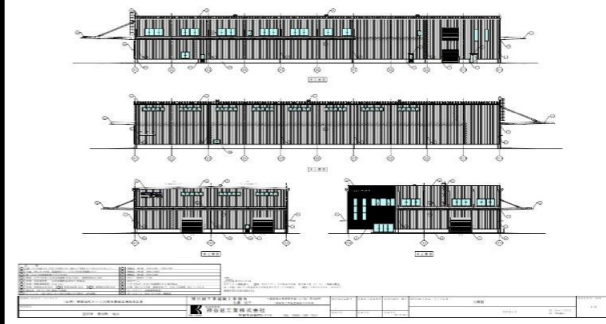


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)株式会社オーツカ様名古屋工場	階数	地上2階
建設地	愛知県豊田市渡刈町五丁目362番1、362番2、363番、364番1	構造	S造
用途地域	都市計画区域内、市街地調整区域	平均居住人員	38人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,500時間/年
建物用途	事務所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2022年3月 予定	評価の実施日	2020年10月23日
敷地面積	4,722 m <sup>2</sup>	作成者	佐藤 道太郎
建築面積	2,572 m <sup>2</sup>	確認日	2020年10月23日
延床面積	4,593 m <sup>2</sup>	確認者	佐藤 道太郎



3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p>3.8</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p>2.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>21.7 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<p>②資源の有効活用</p> <p>3.2</p>	<p>④地域材の活用</p> <p>1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積(建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>										
<b>Q1 室内環境</b>										
<b>1 音環境</b>										
1.1 室内騒音レベル		0.1	2.5	0.15	-	-	-	-	2.5	
1.2 遮音		3.0	3.0	0.40	-	-	-	-		
1.2.1 開口部遮音性能		0.4	1.8	0.40	-	-	-	-		
1.2.2 界壁遮音性能		-	1.0	0.60	-	-	-	-		
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	3.0	0.40	-	-	-	-		
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	-	-	-		
1.3 吸音		-	3.0	0.20	-	-	-	-		
<b>2 温熱環境</b>										
2.1 室温制御		0.3	2.1	0.35	-	-	-	-	2.1	
2.1.1 室温		0.5	3.2	0.50	-	-	-	-		
2.1.2 外皮性能		3.0	3.0	0.38	-	-	-	-		
2.1.3 Zゾーン別制御性		3.0	3.0	0.38	-	-	-	-		
2.2 湿度制御		3.0	1.0	0.20	-	-	-	-		
2.3 空調方式		3.0	1.0	0.30	-	-	-	-		
<b>3 光・視環境</b>										
3.1 昼光利用		0.2	3.3	0.25	-	-	-	-	3.3	
3.1.1 昼光率		0.3	4.2	0.30	-	-	-	-		
3.1.2 方位別開口		3.0	5.0	0.60	-	-	-	-		
3.1.3 昼光利用設備		3.0	3.0	0.40	-	-	-	-		
3.2 グレア対策		0.3	3.0	0.30	-	-	-	-		
3.2.1 昼光制御		5.0	3.0	1.00	-	-	-	-		
3.3 照度		3.0	3.0	0.15	-	-	-	-		
3.4 照明制御		3.0	3.0	0.25	-	-	-	-		
<b>4 空気質環境</b>										
4.1 発生源対策		0.2	3.9	0.25	-	-	-	-	3.9	
4.1.1 化学汚染物質		0.5	4.0	0.50	-	-	-	-		
4.2 換気		0.3	3.6	0.30	-	-	-	-		
4.2.1 換気量		3.0	3.0	0.33	-	-	-	-		
4.2.2 自然換気性能		3.0	5.0	0.33	-	-	-	-		
4.2.3 取り入れ外気への配慮		3.0	3.0	0.33	-	-	-	-		
4.3 運用管理		0.2	4.0	0.20	-	-	-	-		
4.3.1 CO <sub>2</sub> の監視		3.0	3.0	0.50	-	-	-	-		
4.3.2 喫煙の制御		3.0	5.0	0.50	-	-	-	-		
<b>Q2 サービス性能</b>										
<b>1 機能性</b>										
1.1 機能性・使いやすさ		0.4	3.2	0.40	-	-	-	-	3.2	
1.1.1 広さ・収納性		0.4	2.3	0.40	-	-	-	-		
1.1.2 高度情報通信設備対応		3.0	3.0	0.33	-	-	-	-		
1.1.3 バリアフリー計画	独自	3.0	1.0	0.33	-	-	-	-		
1.2 心理性・快適性		0.3	3.6	0.30	-	-	-	-		
1.2.1 広さ感・景観(天井高)		3.0	5.0	0.33	-	-	-	-		
1.2.2 リフレッシュスペース		3.0	5.0	0.33	-	-	-	-		
1.2.3 内装計画		3.0	1.0	0.33	-	-	-	-		
1.3 維持管理		0.3	4.0	0.30	-	-	-	-		
1.3.1 維持管理に配慮した設計		3.0	4.0	0.50	-	-	-	-		
1.3.2 維持管理用機能の確保		-	4.0	0.50	-	-	-	-		
<b>2 耐用性・信頼性</b>										
2.1 耐震・免震・制震・制振		0.3	3.0	0.31	-	-	-	-	3.0	
2.1.1 耐震性(建物のこわれにくさ)		0.4	3.0	0.48	-	-	-	-		
2.1.2 免震・制震・制振性能		3.0	3.0	0.80	-	-	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-		
2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.3	3.1	0.33	-	-	-	-		
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②	-	3.0	0.23	-	-	-	-		
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-	3.0	0.23	-	-	-	-		
2.2.4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-	5.0	0.09	-	-	-	-		
2.2.5 空調・給排水配管の更新必要間隔		-	3.0	0.08	-	-	-	-		
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔		-	3.0	0.15	-	-	-	-		
2.2.7 主要設備機器の更新必要間隔		-	3.0	0.23	-	-	-	-		
2.4 信頼性		0.1	2.8	0.19	-	-	-	-		
2.4.1 空調・換気設備		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-		
2.4.2 給排水・衛生設備		3.0	2.0	0.20	-	-	-	-		
2.4.3 電気設備		3.0	4.0	0.20	-	-	-	-		
2.4.4 機械・配管支持方法		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-		
2.4.5 通信・情報設備		3.0	2.0	0.20	-	-	-	-		

3 対応性・更新性			0.2	3.3	0.29	-	-	-	3.3
3.1 空間のゆとり			0.3	4.6	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり	(事務所)階高5.2m(工場)階高5.3m	-	5.0	0.60	-	-	-	
2	空間の形状・自由さ	(事務所)壁長さ比率)0.26(工場壁長さ比率)0.10	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性			0.3	2.5	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性		-	3.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	1.0	0.22	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.38	-	-	-	2.0
1	生物環境の保全と創出	独自③	-	2.0	0.30	-	-	-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮	独自④	-	2.0	0.40	-	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.0	0.30	-	-	-	2.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	独自④	-	2.0	0.50	-	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		-	2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	-	3.8
1	建物外皮の熱負荷抑制	BPI=0.64	3.0	5.0	0.22	-	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用		3.0	3.0	0.12	-	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化	BEI=0.72	3.0	3.8	0.47	-	-	-	3.8
4 効率的運用			0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	-	3.4
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1	節水	省水型機器	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	3.4	0.63	-	-	-	3.4
2.1	材料使用量の削減		-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		-	3.0	0.25	-	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.21	-	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	② 独自	3.0	3.0	0.21	-	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	-	-	-	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	独自	3.0	5.0	0.25	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.6	0.22	-	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	4.0	0.68	-	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	発泡剤を用いた断熱材を使用していない	-	5.0	0.50	-	-	-	
3	冷媒		3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		①	-	3.8	0.33	-	-	-	3.8
2 地域環境への配慮			0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			-	3.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			-	3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.2	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自	-	3.0	0.25	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		-	3.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自	-	5.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			-	2.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	3.1	0.33	-	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自	-	3.0	1.00	-	-	-	
2	振動	独自	-	-	-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制		-	3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制		-	3.0	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	3.7	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		-	4.0	0.70	-	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30	-	-	-	

**重点項目スコアシート**

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)株式会社オーツカ様名古屋工場

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.8</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.8	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.2</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.4	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>2.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.12	外構緑化:21.7%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>		(評価ポイント)		<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1



## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)株式会社オーツカ様名古屋工場

計画上の配慮事項	
総合	建築物の環境品質を高めると同時に、周辺地域への環境負荷を低くするよう計画している。
Q1 室内環境	居室面積の1/15以上の換気有効面積を確保している。
Q2 サービス性能	事務室の天井高=3m。十分な面積のリフレッシュスペースを計画し、自販機を設置。 維持管理用機能について標準以上の取り組みを実施している。
Q3 室外環境(敷地内)	十分な緑化を行い、緑の確保を行っている。
LR1 エネルギー	BPI <sub>m</sub> =0.64、BEI <sub>m</sub> =0.72
LR2 資源・マテリアル	節水型便器を使用している。 解体・改修・更新の際に容易にそれぞれを取り外すことができる、OAフロアを採用。
LR3 敷地外環境	ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出率=80% 十分な量の駐車、駐輪台数を確保し、導入路に配慮。 光害ガイドラインのうち一部を満たし、屋外広告物なし。
その他	